

おむつ交換時間を短縮しよう！

JA長野厚生連佐久総合病院 美里分院

発表者 重田麻希子

テーマの選定

評価項目	重要性	緊急性	経済性	要求度	患者様	実現性	解決度	総合評価
やってみたい事								
口腔ケアの充実	◎	△	△	○	○	○	○	11
転倒・転落 追跡調査	◎	○	△	◎	○	○	○	13
病室の環境整備	○	△	△	○	○	○	○	10
オムツ交換時間の短縮	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	16
おやつ棚 冷蔵庫の整理	○	△	○	△	◎	◎	◎	12

◎=3点
○=2点
△=1点

決定！

活動計画

⇒ 計画 ⇒ 実施 ☆ 会合

活動項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
テーマの選定	◎	◎								
現状の把握		◎	◎							
目標設定			◎	◎						
要因分析				◎	◎					
対策と実施					◎	◎	◎	◎	◎	◎
効果の確認						◎	◎	◎	◎	◎
歯止め								◎	◎	◎
反省と今後の課題									◎	◎

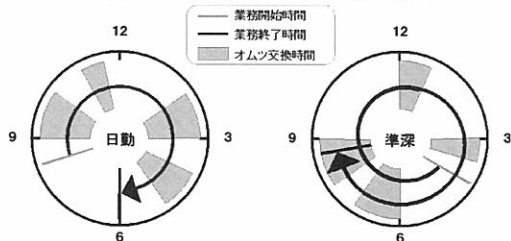
※担当者は対策と実施がスタッフ全員、それ以外はメンバーが担当

やってみたいことをメンバーであげました。業務の見直し、上司方針をふまえ評価項目で判定したところ、おむつ交換時間の短縮をテーマとし活動していくことに決定しました。

メンバーが中心となり活動計画表を作成スタッフ全員が活動に取り組めるようにしました。

現状の把握

オムツ交換にかかる時間



時刻	0	3	6	9	11	14	16	20	合計
交換時間(分)	45	30	60	60	30	60	45	60	390

調査方法

まず1日の業務の中で、おむつ交換にどれだけ時間をかけているのか調査。1週間計測し平均時間を時間帯ごとに算出した。

そこからおむつ交換が1日の業務時間中でどれだけの割合を占めているのか調査。

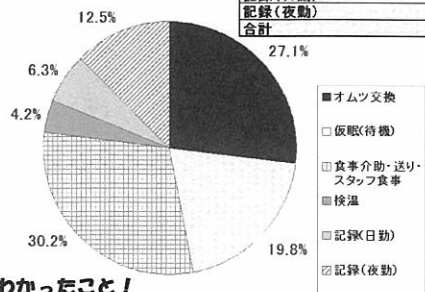
また、オムツ交換に対して、スタッフの意識調査を実施した。

1日のおむつ交換にかかる時間を調査してみました。

サークルチーム名		オムツレンジャー美里		(2001年4月結成)	
リーダー氏名 (職種)	重田 麻希子 (看護師)	所属 部門	看護	月あたり会合回数	3回
リーダー経験年数	1年7ヶ月			平均会合時間	40分
メンバーの数	計7名 うち男1名 うち女6名	活動 内容	質 コスト	平均会合出席率	70%
				テーマ歴 (このテーマで)	1件目

現状の把握

一日の業務時間割合



わかったこと!
1日の業務の3割をおむつ交換が占めている!

一日総時間(分)	1440	
時間(分)	割合	
オムツ交換	390	27.1%
仮眠(待機)	285	19.8%
食事介助・送り・スタッフ食事	435	30.2%
検温	60	4.2%
記録(日勤)	90	6.3%
記録(夜勤)	180	12.5%
合計	1440	100.0%

現状の把握

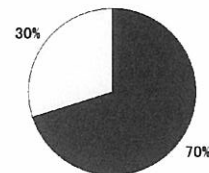
オムツ交換に時間が
かかると思いますか?



わかったこと!

おむつ交換スタッフ25名中23名がおむつ交換に時間がかかる
と感じているのに8名は改善が必要ないと思っている。

オムツ交換時間に対して
改善が必要だとおもいますか?



現状の把握

オムツ交換で困ることはありますか?



幾つか出た意見の中で多かったものをピックアップ(複数回答可)

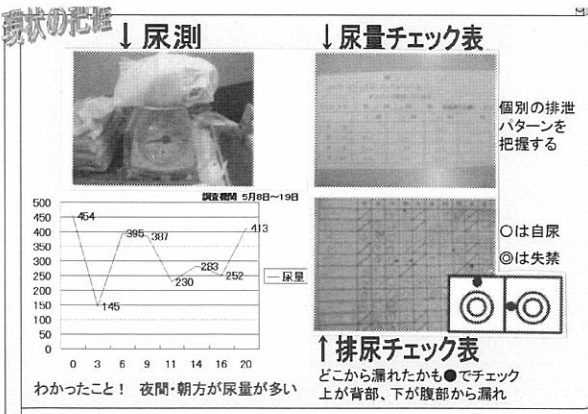
わかったこと!

交換回数が多いこと、夜間のおむつ交換で患者様に負担をかける

結果

おむつ交換時間が1日の業務の中で3割を占めていることがわかった。
スタッフの意識調査ではスタッフ間でも意識の差があることがわかった。
また、おむつ交換では回数が多いこと、夜間のおむつ交換で患者に負担をかけているとスタッフが感じていることがわかった。
このことから実際に尿量計測をすることで、どの時間に尿量が多くどのような漏れ方をしているかを調べた。

現状の把握



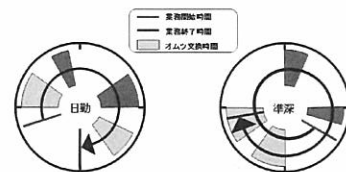
尿測をしたことで、実際に夜間の尿量が非常に多く患者様に負担をかけていることがわかった。

このことから夜間の0、3時と日中の11、14時のおむつ交換を軽減できれば、おむつ交換時間が少なくなることがわかった。

夜間の患者負担を軽減でき、日中の看護・介護の質の向上を目的とするために、目標を設定した。

目標

オムツ交換の時間を トータル

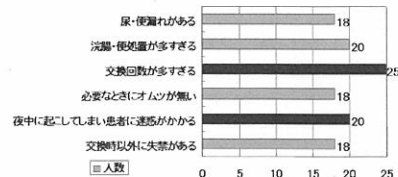


目標の裏づけ

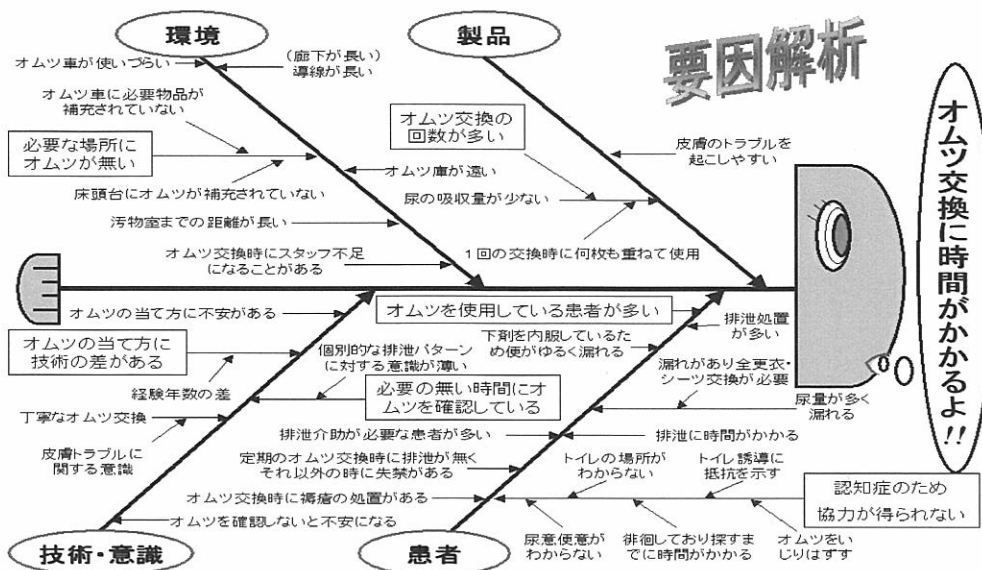
時刻	0	3	6	9	11	14	16	20	合計
交換時間(分)	45	30	60	60	30	60	45	60	390

1. 日勤での患者様と関わる時間を増やすために

2. 夜間おむつ交換をすることにより患者に負担をかけないために



要因解析



対策の立案

<◎-3点, ○-2点, △-1点, ×-0点>

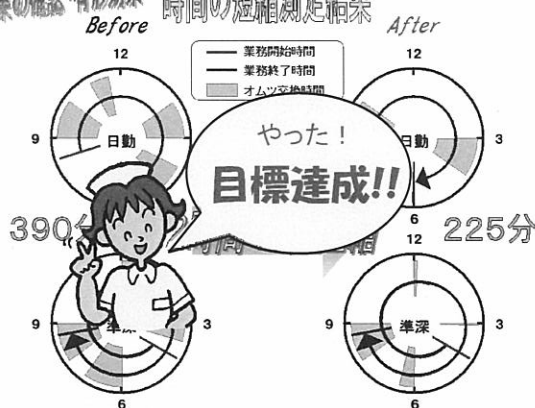
		1次方策	2次方策	3次方策	効果	実現性	得点	採否
オムツ交換時間を短縮する	オムツ交換の回数を減らす	当てる方の工夫・統一	当てる方の学習会	当てる方の学習会	◎	◎	6	採用
			ADLに合わせた対応	ADLに合わせた対応	◎	△	4	否
		製品の見直し	患者に合わせた製品の選出	患者に合わせた製品の選出	◎	◎	6	採用
			排泄ケアセミナーに参加	排泄ケアセミナーに参加	△	○	3	否
			様々なサンプルの使用	様々なサンプルの使用	○	○	4	否
			統一事項に記入	統一事項に記入	◎	◎	6	採用
	患者の協力を得る	変化する患者情報の共有化	オムツ交換時声掛け	オムツ交換時声掛け	○	○	4	否
			排泄パターンを申し送る	排泄パターンを申し送る	◎	○	5	採用
		排便チェック表の作成	排便チェック表の作成	◎	◎	6	採用	
	患者状態の把握	時間ごとの排泄チェック	時間ごとの排泄チェック	○	○	4	否	
		自然排便を増やす	自然排便を増やす	○	△	3	否	
	オムツの管理をする	在庫量の把握	在庫管理点検表の作成	在庫管理点検表の作成	◎	◎	6	採用
			倉庫を増やす	倉庫を増やす	◎	◎	6	採用
		導線の見直し	処置カーの改善	○	◎	5	採用	

対策の検討と実施

対策	いつ	どこで	誰が	何を	なぜ	どうする
1 狙いオムツに変更する	4月-5月	病棟で	スタッフ全員が	テーナの当て方を	交換回数の少ないテーナを知る為に	勉強する
	随時	病棟で	スタッフが	使用するオムツを	患者の不快感を減らし、オムツ交換の回数を減らす為に	選択する
2 患者に合わせて当て方を工夫する	随時	病室・トイレで	スタッフが	テーナの当て方を	認知症により協力が得られないから	その患者に合ったテーナの当て方を共有する
	随時	病棟で	スタッフが	下痢・排便処置内容を	使漏れを防ぐために	排便チェック表を使用し、処置の工夫
3 排便チェック表を使用し、患者状態を把握する	随時	病棟で	スタッフが	下痢・排便処置内容を	使漏れを防ぐために	排便チェック表を使用し、処置の工夫
	申し送り時	ナースステーションで	パートスタッフが	排泄状態を	排泄パターンを把握する為に	患者状態を申し送り明記する
4 統一事項、オムツ情報を記載する	随時	病棟で	スタッフが	オムツ係りが	個別ケアができるように	カードに記入し指図する
5 在庫管理表の作成	随時	病棟で	人帯担当者が	オムツを	在庫管理をするために	点検表に記入する
6 オムツ保管場所を増やす	7月	病棟で	オムツ係	オムツ倉庫を	導線を短くする為に	2ヶ所に増やす

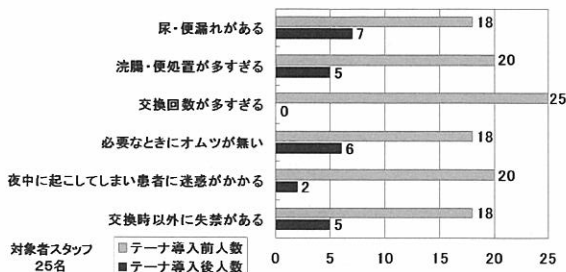
効果の確認・有形効果

時間の短縮測定結果



効果の確認・有形効果

オムツ交換で困ることはありませんか？



効果の確認・波及効果

短縮した時間の使い方

ベッドサイドで



短縮した時間で患者と
触れ合う時間が増えた

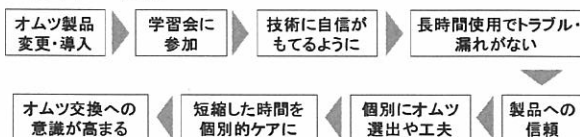


効果の確認・波及効果

床頭台がすっきり



意識の変化



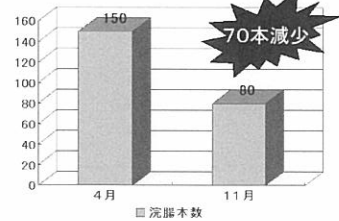
反省と今後の進め方

手順	良かった点	悪かった点	今後の進め方
P テーマの選定	方針に基づきテーマの選定ができた	—	方針に沿ってテーマに取り組む
P 現状の把握・目標の設定	尿量を測ったり、漏れの箇所を調査したことにより交換時間の悪さが較べられた	絞込みに時間を要した	データの取り方を工夫していく
P 活動計画の作成	役割分担をし効果的に進められた	—	今後もグループの力を合わせ効率的に進めていく
D 要因解析	他部門を巻き込んで取り組めた	解析能力が悪かった	解析力を高める
D 対策の検討と実施	数多くの対策があがり多くのスタッフが関わった	固定観念にとらわれ時間を要した	既成観念にとらわれない見方・考え方をしていく
C 効果の確認	目標が達成でき無形の効果として患者様の医療費の負担が軽減できた。スタッフの意識が改善し患者様の個別ケアの質の向上につながった	患者様の意識・感想を調査する工夫がされなかった。	—
A 歯止め・標準化	標準化が図れ効果が継続されている	—	改善されたものが元に戻らないよう図る

目標が達成され時間短縮が図れ、再度アンケートをとったところ、おむつ交換回数が減り、夜間患者様に負担をかけることも減ったという調査結果がでた。

効果の確認・波及効果

1ヶ月の平均洗腸使用量



便の性状変化(下剤の調整)

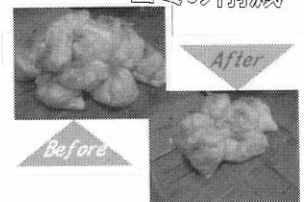
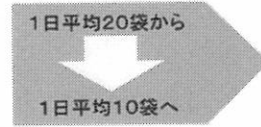
調整した人 20人
 変化みられた人 15人
 変化無かった人 5人

(変化の無い人は洗腸でないといけない、または下剤を過ぎて便がゆるくなり、認知症により使いじりみられたため)

洗腸1ヶ月のコストも25500円⇒13600円⇒11900円削減できた

効果の確認・波及効果

ゴミの削減



1ヶ月のコスト削減

- おむつ代・・・平均6500円ダウン
- 洗腸代・・・11900円ダウン
- ゴミ袋代・・・4500円ダウン

《歯止め》[5W1H] 標準化

なぜ	何を	誰が	どこで	どうする	いつ
教育、訓練	テナナの当て方	村上主任	病棟会議で	学習会開催	毎月
標準化	排便情報の共有化	スタッフ	病棟で	排便チェック表に記入	随時
	在庫管理(オムツの補充)	入浴担当者	病棟で	在庫管理点検表に記入	随時
	個別ケア	スタッフ	病棟で	カーデックスにオムツ情報を記入指導	随時
維持管理	患者情報	リーダー 重田	病棟会議で	定期的な話し合い(意識を保つ)	毎月

排泄ケアに対するスタッフの意識をより一層向上させるためにさまざまな学習会へ参加し、病棟内、院内で学習内容を伝達させていきたい。

スタッフ全員が業務のなかで協力しあい、今まで以上に患者と共有時間を増やし、個別的なケアの向上に努めていきたい。

退院する患者様を介護する家族や入所先の施設のスタッフへ、排泄ケアに対する工夫などをアドバイスし支援していきたい。